

10801無機・有機化学工業製品製造業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	12	9~10	コーキング工場13号ニーダー（混練機）で、内部羽根を低速回転させながら洗浄（拭き取り）作業を行っていたとき、足場が滑り、咄嗟に左手で混練機壁面をつかんで体を支えようとしたところ、回転してきた羽根に左手を巻き込まれた。滑りやすい床（足場）の清掃が不十分で、拭き取り作業時には羽根を一旦停止させるルールが徹底できていなかった。他の作業者が羽根を逆回転させて救出したが、左手親指付け根に大きな裂傷を負った。	46	7	162	30～ 49
2	2017	12	17~18	プラント停止洗浄作業において通路を通行中、上蓋を開放したマンホールに右足を落とし、高温（約70℃、PH約11）の排水に接触して右足首より下を熱傷した。当該マンホールは通常上蓋が設置されているが、洗浄水をホースで抜き出しており、排水量確認のため上蓋が当日より解放されていた。	21	11	418	100 ～ 299
3	2017	12	10~11	工場内の粉碎室内において、脚立に乗って頭上の集じんダクトの上のほこりをエアホースで払い落していた時に、足を踏み外して転落してしまった。	62	1	371	100 ～ 299
4	2017	11	15～ 16	事務所棟において、被災者が比重測定作業中、恒温水槽から樹脂容器（500?）を取り出そうとした時、誤って手が滑り容器が落下し、その容器が恒温水槽の枠に当たり、液が飛散し、こぼれた（300?程度）、その際、容器内のアボイド81（水酸化ナトリウム30%相当）の液を顔、首、頭頂部に被液し薬傷を負った。	19	12	519	50～ 99

5	2017	11	16~ 17	水酸化リチウムの袋詰め作業において、原料ホッパーから粉体を袋に充填する際、袋から粉がこぼれる状況が発生し、片足付近に粉が付着した。当該作業においては、水酸化リチウムの特性上、粉塵の皮膚付着による熱傷の可能性が既知であった為、ライン内はパーテーションで囲い、局所排気装置を設置、専用の防護装備対策（フルフェイス電動ファンマスク、防塵服、PE長手袋、安全短靴）は実施済みであったが、安全短靴（一部足首が露出）と防塵服の隙間より粉塵が内部に侵入し、熱傷した。	62	12	514	30~ 49
6	2017	11	10~ 11	工場内の金属製の配管に物が詰まり、縦に通っている配管の継手部分を分解してリフトで上部の配管を吊るして、下部のL字部分に左腕を入れて取り除く作業をしていたところ、吊るしていたロープがずれて上部の配管が落下した。左腕の上に落ちて挟まれ打撲した。	72	4	222	1~9
7	2017	11	8~9	包材置き場で、充填用段ボールを準備中に、床に立てて置いてあった段ボールに躓き前方へ転倒した。	67	2	611	100 ~ 299
8	2017	10	11~ 12	お手洗いへ行き、工場に戻る途中、スロープで誤って転倒し、右ヒザを強打した。	66	2	417	1~9
9	2017	10	0~1	6階に設置しているドライボックスと5階混酸槽をつなぐ配管を6階にて低い姿勢でボルトを締めた際に腰を痛めた。	38	19	921	100 ~ 299
10	2017	10	17~ 18	弊社取り扱い薬品の製造実験中、切り替え整備中に対象薬品を含んだ汚泥をU字溝より掻き出す作業を行った。その際に、対象薬品が蒸気となって漂い、作業者が負傷した。	50	12	519	100 ~ 299
				開発研究設備（合成紙の表面処理を行う回転体）での作業中、紙管（ロール）に合成紙の巻きつけ作業を行う際、紙管と紙の				

11	2017	10	13～ 14	間に右腕を巻き込まれた。事故原因は、作業手順書と作業実態の乖離。当方設備は、回転速度が低速のため、トルク制御を行っていない。そのため作業手順書では、テープ固定での巻き付けを限定しているが、その教育が適切にされておらず、手による巻き付けを行ってしまったことによるもの。	54	7	166	100 ～ 299
12	2017	9	10～ 11	第二工場PNTS溶解作業所で設備機器の塗装を行うため保管している塗料を取りに行った時、缶の中の塗料が乾いていないか人指し指で押して確認しようとして右手のひらが缶の切り口に当たりびくっとして右手を引っ込めた時に、切り口の鋭利な出っ張りで右手のひらを切った。缶切りで切り取った跡の鋭利の出っ張りがある状態の缶を使用していたことと、素手で塗料缶に手を入れたことで、このような災害が発生した。	33	8	379	50～ 99
13	2017	9	8～9	事業所研究棟において出勤直後に同棟更衣室へ移動中に、更衣室入口に有る階段で足を滑らせ転倒し、その際に左肘を強打した。当日は雨天で足元が滑りやすくなっていた、診察の結果、左肘頭骨折の災害が発生した。	25	2	413	50～ 99
14	2017	9	19～ 20	工場内にて、ペレット製造ラインのペレターサー（ひも状の製品を切断してペレットにする機械）でトラブル後、復旧する際右手を巻き込まれ負傷した。	41	7	169	1～9
15	2017	9	10～ 11	工場内で側溝調査を行っていた。工場壁際の側溝径路を目で追いつつ、所定場所内に置かれた木製パレットの前を横歩きで移動していたところ、パレットの角で左足先端部を引っかけた。バランスを崩しそうになり、慌てて踏ん張ったところ、左足外側部に体重がかかり負傷した。（転倒はなし）	51	19	417	50～ 99
16	2017	8	8～9	当社工場の苛性ソーダを酢酸で中和する工程で、中和終点を確認するため、点検口を目視確認したところ、液が突沸し、左首から背中上部にかけて薬傷を負った。	32	12	511	10～ 29
				本社製造棟内において、食堂のシンク前を清掃中、水を含ませ				100

17	2017	8	8~9	たモップの絞りが弱い状態で床を磨いたため、濡れた床面で足を滑らせ転倒し、負傷した。	22	2	417	~ 299
18	2017	8	22~ 23	工場内のアルカリ溶融工程における攪拌槽にて、トラブルが発生し、アルカリ溶融液が攪拌槽の蒸気を抜くための配管内に流入した。配管内にて冷えて固まった溶融液を除去する作業を行っていた際、配管内の固化物を別の容器で受けていたときに、固化しきっていない液部分が固化したものと一緒に容器内に落下してしまい、液が飛散して作業者の顔と首に薬傷を負った。	28	12	519	50~ 99
19	2017	8	15~ 16	工場内にて、三本ロールでインチを充填中に、持っていたヘラがロールに巻き込まれたため、無意識にヘラを取ろうと右手を出した際に、右手もロールに巻き込まれた。すぐに手を引いたが、小指の第一関節から先を切断し、薬指の指先の皮膚が裂けた。	30	8	166	500 ~ 999
20	2017	7	10~11	作業場で清掃作業中にフォークリフトにて移動しながら降りる際に足元の段差に気づかず段差の上に足を置いてしまい左足を捻り左足首を捻挫した。	49	19	419	1~9
21	2017	6	14~ 15	工場内にて、ボビンに巻かれている組紐の残糸をカッターで切る際に、カッターの刃を進行させる方向にボビンを押さえる手があり、残糸上をカッターの刃が滑り、ボビンを押さえている左手の親指を切った。	31	8	364	10~ 29
22	2017	6	13~ 14	プラントでコンテナ洗浄中、階段降下時に足を踏み外し、洗い場ステージと階段との隙間に足が入り転倒した。その時に右臀部を打って負傷した。	53	2	413	50~ 99
23	2017	6	18~ 19	粉体製品の充填作業中に、製品移送機で詰りが発生したため、設備全体を停止して粉体の払い出しを実施した。当該機器を起動し試運転中、フィード口付近の粉体を除去しようと点検口より手を入れ、移送スクリュウと装置壁の間に指を挟まれた。	22	7	224	50~ 99

30	2017	5	18～ 19	夜間トラック出入のためプラットホーム踊り場に業務終了後、照明用の電気スイッチを入れ戻す時に、階段脇が濡れていたため足を滑らせ下に落ちてしまい（高さ1m10cm）、左足かかとを骨折してしまった。	66	1	416	10～ 29
31	2017	5	11～ 12	建屋内3階で設備の整備作業中に気分が悪くなり、一旦作業場近くで腰掛けて休憩した後、エレベーターを使って1階の詰所に向かおうと立ち上がった際、下半身に力が入らずバランスを崩して転倒し、左橈骨・左第7肋骨を骨折した。	56	2	921	100 ～ 299
32	2017	5	14～ 15	工場内で製品のペレットをスチールスクリュウを使ってフレコン（大型の袋）に入れる作業の途中に、製品のペレットのサンプルを取り出すため、スクリュウコンベア入口からプラスチックのカップで取ろうとした時にカップを落してしまい、それを拾おうと電源スイッチを切らずに手を入れた拍子に回転刃に強く当たり、右手中指と薬指を骨折した。	28	7	169	10～ 29
33	2017	4	16～ 17	ジェットミル粉碎室から製品をエレトラックに積んで運搬していた途中で、工務課のエレトラックが停車していた。通れないと判断し別の通路を通ろうと後進した際に右側の後輪が溝にはまり、その反動でエレトラックの向きが変わって配管に接触した。慌てて前進をした時にアクセルリングを強く握ったため勢いよく前進し、溝蓋の段差でバランスを崩した時に足が滑り、右足が車外へ出て支柱とエレトラックの間に足が挟まれた。	36	7	229	100 ～ 299
34	2017	4	18～ 19	廃棄物を投入後、コンテナに設置されている階段を下りる際、残り2段（約40cmの高さ）より足を踏み外し、背中から転倒した。背中に違和感があったが、就業できない程ではなかったので、その後もそのまま就業した。背中痛みがあり、後日、肋骨が3本折れ、内1本が肺に刺さっていることがわかった。	57	1	413	10～ 29

35	2017	3	9~10	工場内で車輪付き足場を移動中、高さ調節のために足場に登った時にバランスを崩し、飛び降り（約1m）で右足首を捻った。	45	1	411	50~ 99
36	2017	3	10~11	休憩時間にトイレから帰る際、何も無い所で安全靴の底が床に引っ掛かり躓いて、左手をついて左肩に全体重がかかり、左肩の関節を脱臼した。	33	1	418	10~ 29
37	2017	3	14~15	S2Cプラント2階パレット化設備にあるストランドカッターで、ストランドカッター手前に堆積していた樹脂ストランドを除去する作業に着手し、堆積していた樹脂ストランドを抜いた際に、樹脂ストランドの先端が目に入り、目を負傷した（角膜潰瘍、光彩に傷有り）。作業時は保護メガネを着用していたが、他作業で汗をかき、花粉症の為マスクを着用していたこともあり保護メガネが曇った為、保護メガネを外して作業を継続し、目を負傷した。	32	4	529	100 ~ 299
38	2017	3	14~15	ライン稼働が終了し、清掃の一環として区画テープ（ラインテープ）の貼り替えを2名で行っていた（床ライン貼替）際、テープの端を持ち貼る位置を確認し、しゃがんだ瞬間に左膝外側に違和感を感じた。その後、テープを貼り終え立ち上がって歩行しようと体重移動した際、痛みを感じた。	45	19	921	300 ~ 499
39	2017	3	14~15	廃溶剤をドラムからポンプを用いて、廃油タンクへ移液する作業中、ドラム内液が少なくなった時、ドラムに差し込んだステンレス製ノズルとドラム底面との接触し、スパークが発生した。その際、ステンレス製ノズルを持っていた右手首から肘にかけて火傷した。原因は、使用していた樹脂製ホースの静電気防止機能の低下と考えられる。	49	11	512	50~ 99
				夕食後、宿泊ホテルへ帰る際にホテル入口前のスロープにてふらつきが起き、左にバランスを崩した。左足で地面を蹴って左へバランスを取ったとき、右肩にかけていたバッグが肩から				

40	2017	3	0~1	落下しそうになったため、咄嗟にバッグを受けとめようと右足を出したがスロープ状になっていたため、足が思ったとおりに着地できず、空足の格好となり、右膝が異様な角度となり「ゴキッ」という音がしてその場に倒れた。受傷時は軽度の飲酒はしていたが、歩行に支障の出る程度ではなかった。また、常用薬として痛み止めを服用していたが、ふらつきとの因果関係は不明である。	51	19	417	300 ~ 499
41	2017	3	10~11	第一工場1階乾燥フロアで、製品の計量作業をフロアのシャッターを閉めて密室の環境であり、製品が空気中をまわっている状態のため防塵マスクを着用していたが、防塵マスクのフィルターを付け忘れ、製品を吸い込んだ。	37	12	514	30~ 49
42	2017	2	14~15	色物製造工程にて、ミキサー内製品の残りを手で掻き出しを行おうとした際、惰性で回転していた攪拌羽根に指が巻き込まれて、右手指を切創し、骨折した。	30	7	162	10~ 29
43	2017	2	14~15	売場レジにてチェックアウト業務を行っている時、お客様が持ってきたショッピングカート下段に入っていた350ml缶のビールケース（レジ右側）をしゃがんで両手で持ち、レジ中央部のスキャナーに持ち上げようとした。この時、以前から鈍痛を感じていた左肩に強い痛みを感じた。痛みを耐え業務を終えたが、痛みが増してきたので店員に報告した。	36	13	359	100 ~ 299
44	2017	1	15~ 16	貯塩槽循環ポンプのVベルト（4本がけ）の交換作業を2人で行っていた。3本目のベルトをかけようとした際、右手人差し指の先がプーリーとベルトの間に挟まった。あまりの激痛により力づくで指を引き抜いたところ、表皮と真皮が剥離し出血した。	54	7	121	100 ~ 299
				被災者はリスラリー工程で使用する原料を確認する為、歩行で倉庫へ移動し、倉庫入口から進入する際に、倉庫入口付近で運搬作業をしていたフォークリフト作業員（操作者）は後進して				100

45	2017	1	8～9	来た為、お互いに気付かずフォークリフトの右後部に接触し、右後輪に左足を轆かれ、左足裏を裂傷し、左中足骨骨折になった。	59	7	222	～ 299
46	2017	1	10～ 11	フライス盤作業で加工開始した時、設置していた加工部品が傾いたため、部品を押さえるため右手を回転切削部に差し入れ、軍手が巻き込まれ、右手小指の第2関節を切断した。	21	7	152	30～ 49
47	2017	1	20～ 21	工場TM棟のバンド型熱風通気乾燥機の製品受のボックス交換作業中、出口に取り付けられているビニールシートを持ち上げる際に、誤ってバルブボックス内に指が入りロータリーバルブに接触し、左手中指を裂傷し、縫合手術を受けた。	49	8	342	50～ 99
48	2017	1	10～ 11	除草剤製造の為、水を溜めていたタンクへ薬剤（グリホエース）注入作業、攪拌された除草剤のボトルへの充填作業を行っていた（1日約1時間）。作業中はゴム手袋をしていたが両手のひらと甲、及び顔面に湿疹ができるなど炎症がひどくなった。	42	4	514	1～9
49	2017	1	8～9	工場環境保全（水処理）現場にて、架台上でコンテナ誘導作業中、フォークリフト運搬中のコンテナと架台の間で、フォークリフト操作者が操作を誤り（ギアを抜かず、サイドブレーキを引きブレーキを離しエンスト、リフトが動きコンテナが動く）、誘導中の傷病者が架台とコンテナの間に指を挟まれ骨折した。	55	7	222	100 ～ 299
50	2017	1	8～9	電源を切らずに空転しているベルトを手でつかみ動かしたところ、ポンプが稼動し、右手をベルトに巻き込まれ負傷した。	43	7	169	30～ 49
51	2016	12	10～ 11	工場内1階倉庫内に保管中のフレコンバックが荷崩れし倒壊の恐れがあるため、修復作業を行ったところ、修復中のフレコンバック上で作業中の作業員と共にフレコンバックが倒壊した。作業員は、落下して床面で身体を強く打った。	58	1	611	10～ 29

52	2016	12	12～ 13	設備において、サンプル抜出口からPET樹脂チップを除去していたところ、チップが詰まり、専用治具を使用しても除去できなかった。そこで、末端のバルブを取り外し、設備の攪拌翼を動かしたまま専用治具をサンプル抜出口へ挿入した。バルブを取り外した為、その分、攪拌翼に近くなり専用治具が攪拌翼に接触した。専用治具が攪拌翼に巻き込まれ、専用治具の持ち手に右手薬指を引っ掛けていた為、サンプル抜出口で負傷した。	30	7	169	100 ～ 299
53	2016	12	7～8	工場建屋内の金型メンテ場にて、金型メンテ作業中、クレーンで吊り上げたスライドブロックを抜き取る工程で、スライドブロックの形状が凹凸のある形状である為、自重で傾いた時に、添えていた左手がスライドブロックとレールの間に挟まり、指3本を裂傷した。	66	7	379	50～ 99
54	2016	12	15～ 16	食品ライン調整室において、製品の殺菌作業後に殺菌庫から殺菌用かご車を引き出す際、下段は空状態で上段のみに製品をのせていたため、重心が上段となりバランスが崩れ、かご車とともに転倒した。その際、かご車の上部が左目付近に当たり創傷。また尻もちをついた際に、腰、首を負傷した。	31	2	362	10～ 29
55	2016	12	16～ 17	生産設備機械にて、設備の上で洗浄作業が終わり、三段のアルミ製の踏み台を後ろ向きで床まで降りようと、踏み台の三段目に右足を着いたところ、踏み台がぐらついてバランスを崩して倒れ、その時に左足踵から落ちた為、左足踵を陥没骨折した。	43	1	371	50～ 99
56	2016	12	13～ 14	工場内にて製造中、爆発が起き、作業をしていた被災者が負傷した。	53	14	321	50～ 99
57	2016	12	15～ 16	製品出荷の為、危険物倉庫内のエタノール（1斗缶）を運び出す際、両手に1缶ずつ持ち、プラスチックパレットから降りようとした時、荷崩れ防止用にラッピングしてあったストレッチフィルムに左足つま先を引っ掛け転倒した。右手に持っていた1斗缶は手放し、左手に持っていた一斗缶が右下腿にあたり打	48	2	611	50～ 99

				撲した。				
58	2016	11	7～8	被災者はアルミナ溶融炉のスタート準備として点火作業を開始。排気ブロアー、循環ポンプ起動、冷却水通水を順次行い、酸素とLPG元バルブをそれぞれ開とした。手元バルブにて一次酸素量を所定量に設定した後、着火棒を点検口から炉に挿入した際、バックファイヤーを起こし、その際、顔面を被災した。	59	16	513	50～ 99
59	2016	11	14～ 15	工場内にて切り換えラインの掃除作業中、粉体設備の一部に装着しようとした。手前の土台に足をかけ、左手で装置を持っていたが、土台が突然に傾き、体のバランスを失った状態になり、落下した装置に左手を挟んで負傷した。	39	1	521	10～ 29
60	2016	11	8～9	工場内製造作業中、プラスチック樹脂着色加工の押し出し機の機械清掃中に作業台が揺れてしまい、カッターにより左手指3本を負傷した。	46	8	169	30～ 49
61	2016	11	8～9	朝礼終了後、別棟のコーター工場へ検査工程で使用する油圧式ハンドリフターを取りに向かった。ハンドリフターを引きながら工場外に出ようとしたところ、出口前に障害物があったため、荷台を最上段まで上げ、障害物をかわして通った。そのまま後ろ向きで出ようとしたとき、ハンドリフターの後輪が路面の凹みにはまり、ハンドリフターが倒れそうになったため、支えようとしたが支えきれず転倒し、地面に腰部を強打した。	45	5	362	100 ～ 299
62	2016	10	13～ 14	肥料の船積み作業中、リフトマンが2段積の製品を前進走行で運搬している際、被災者が、走行している動線に後ろ向きで飛び込んできた。接触の際、別のリフトマンが気付き声を掛けたが間に合わず、右足が製品のパレット部分に接触した。	64	3	222	50～ 99
63	2016	10	9～	事業所構内で1包のドライアイス作業台で開梱し、ベルトコンベアへ押し出す作業をしていた。ベルトコンベア前は、開梱したドライアイスが集中し滞留していて、通常は両手でドライアイスの後ろ側を押すところを、その時はドライアイスの横に	23	7	611	10～

			10	立ち両手で挟むようにして横歩きして勢いをつけて押していた為、勢い余って、右手指を運んでいたドライアイスと滞留していたドライアイスに挟み負傷した。					29
64	2016	10	16～ 17	被災者は、ポリエチレン製造施設新造粒室において、合成樹脂混練機クリーニング端切り時、操作架台で樹脂の切断作業をしていた。その時、柔らかい高温樹脂が飛散し臀部、右足一部、手一部に火傷を負った。	22	11	715		500 ～ 999
65	2016	10	14～ 15	工事養生で廃溶剤処理槽及び焼却炉フィード配管へ蒸気を通して配管中の溶剤を洗浄ドレン水と共にノズルより排出していた。被災者がドレン水量が多いため、ノズル手元コックを絞ったところ、樹脂製ホースとノズルの接続が外れ、被災者の両手、両腕、両腿に高温のドレン水が掛かった。	44	11	379		100 ～ 299
66	2016	10	16～ 17	製造工程で、半製品をベルトコンベアで次工程へ供給する作業中、ベルトコンベア内部のモータープーリーに居付きが発生したため、軍手を使用してモータープーリーを拭こうと考えた。ベルトコンベアを停止させてから居付きを除去するべきところ、稼働中にモータープーリーを拭いたため、軍手と一緒に右腕が巻き込まれて被災した。	44	7	121		10～ 29
67	2016	10	13～ 14	倉庫シャッター付近で積込対象品の最終確認作業を実施する為に、同場所で保管していた2段積みワイヤーバスケットの下段のワイヤーバスケットのふたを開けた事により、上段のワイヤーバスケットが重量に耐えきれずバランスを崩して落下し、被災者の頭部及び左胸、左ひざに接触し、その反動で地面に倒れた。	48	5	611		100 ～ 299
68	2016	9	16～ 17	一日の作業を終え、管理室に帰る際、工場内の通路にある排水用ピットに左足がはまり、左足膝を負傷した。	45	1	417		50～ 99
69	2016	9	11～	工場にて粉碎機の羽根の交換作業中、レンチで羽根を締めてお	53	3	417		10～

			12	り、その際右手が滑り地面に右手を強く打った。				29
70	2016	9	16～ 17	農薬製剤の実験中、農薬の原料を混合機で混合後、排出口から排出し切れなかった混合粉を取ろうと禁止している「安全装置」を手動で解除し、混合機を運転しながら排出部に手を挿入した。手で払い落として作業を行ったことから、鋭利な排出口の先端に右手薬指があたり創傷し、更に前のめりに作業していた為、反射的に奥にある回転部に右手が入ってしまい、ミキシングアームで右手中指の第一関節上部を負傷した。	34	8	162	500 ～ 999
71	2016	9	3～4	工場2FでTPE?過作業をしていたところ人が倒れているのを発見。直ちに救助に向かい5m程動かしたが、硫化水素濃度が高かったため、管理室近くまで防毒マスクを取りに戻った。この際、ガス中毒にて意識朦朧となり転倒し、顔面～肩付近を打ち負傷した。	54	2	514	30～ 49
72	2016	9	3～4	反応タンクでのソーダの硫化水素ガス抜き工程で、誤って大気解放バルブを閉じて作業を行った為、タンク内の減圧度が高まった。そのため、急激な硫化水素ガスの突出が生じ、2Fに仮設設置していた真空ラインのホースが抜け、場内にガスが漏洩した。被災者は漏洩を防ぐ為、抜けたホースを再接続したが、防毒マスクを装着していなかった為、ガスを吸引してしまった。	39	12	514	30～ 49
73	2016	9	11～ 12	真空ポンプの修理中にフライホイールを軸に差し込む作業をしているときに、軸に差し込む事ができずに手に持ったまま落下して、真空ポンプとフライホイールで左手を挟み、左手薬指を骨折した。	66	4	379	10～ 29
74	2016	8	23～ 24	工場内のTNP缶レシーバー下にてTNP缶レシーバーからフレーカーラインをソーダ灰入り温水で洗浄中、TNP缶レシーバー釜底コックに詰まりがあった為、ライン内にプロセスエアーを使用し詰まりを取り除いた際、レシーバーの温水が吹き上げ、	40	12	514	50～ 99

				とっさに避けたが背中にかかり薬傷、火傷した。				
75	2016	8	11～ 12	屋外でフォークリフトのツメを移動させようとして、手で持ち上げたところ、誤って手を滑らせ、右足の指先に落下した。	33	6	379	30～ 49
76	2016	8	12～ 13	タンクからタンクへ液の移送が終了し、タンク間のバルブをバルブレバーを使用し閉めようとしたがバルブが固く動かなかった。そこで引く方向で全体重をかけ力を入れて閉めようとしたところ、バルブレバーが折損し後ろ向きに転倒した。転倒した際、ヘルメットはかぶっていたが後頭部を強打し、頸椎捻挫した。	26	2	364	300 ～ 499
77	2016	8	2～3	パラクレゾール(PC)蒸留施設にて、規格から外れたPC製品を再度蒸留する為に蒸留装置に戻す作業を行った。その際、受入側の弁を自動から手動に切替えて開けなければいけなかったが、作業者は失念しており、液の移送が出来なかった。このままではホース内のPCが固まってしまうと思い、接続されていたホースを外した所ホース内のPCが飛散して、作業者の両腕及び左脇腹と左足にかかり、薬傷を負った。	43	12	391	50～ 99
78	2016	8	23～ 24	パラエチルフェノール(PEP)蒸留施設にて、蒸留により抜き出した水分を、留出水としてIBCコンテナにホースを使って回収する作業を行った。回収作業の最後に、ホース内の液を蒸気を使って押し出し、洗浄する作業を行ったが、その際、液内にホースの先端が浸かっていたので、先端を液面から浮かせた所、誤ってコンテナの外にホースを抜いてしまい、蒸気で押し出されたPEP混じりの水がコンテナの外に飛散して顔にかかり、薬傷を負った。	43	12	391	50～ 99
79	2016	8	9～ 10	化学品工場の2階3号室で、製品を収納したダンボールをパレットに載せていた時に、段ボールを上段に載せるため持ち上げて移動しようとしたところ、バランスを崩して背後に置いてあった別のパレットに躓き転倒、躓いたパレットに左足をぶつ	58	2	379	50～ 99

				け、左足大腿部を打撲した。				
80	2016	8	10～ 11	フレコンで送られて来た原料のタンクへの移しかえ作業を行う際、フレコンの一部がタンクに引っかかり、その状況を改善しようとタンクにのぼったところ、足をすべらせ床に落下、骨盤部にヒビが入った。	62	1	418	30～ 49
81	2016	7	11～ 12	2～3階にて固着物除去作業を開始した。高温の環境下、超高压水、掃除棒等で固着物除去を行ったが、当日は気温も高く、高温多湿で、作業終了後、現場詰所にて大量の発汗と手足のつりを発症した。	50	11	715	30～ 49
82	2016	7	10～ 11	営業活動中に高速道路を運転していたところ、渋滞に差し掛かった為、車を停車させた。その後、後続の車両が停車し、更に後続の車両が当人の後続車両に追突した。その勢いのまま当人の後続車両が当人の車両に追突し、首を痛めた。	26	17	231	10～ 29
83	2016	7	13～ 14	製造工場において、ポリエチレン発泡体の練生地を押出機計量作業中、押出機から出た横長の練生地を右横の計量機に載せようとして、朝から少し痛みがあったが両手で持ち上げたとき、右上腕部を痛めた。	20	19	529	30～ 49
84	2016	7	17～ 18	高速道路走行中、先頭の軽乗用車がタイヤバーストにより横転し、その後ろを走行していた2台（被災者は2台目）は十分車間距離を取っていたため横転車両の前でぶつかることなく停車した。その10数秒後、脇見運転をしていた後続車両がノーブレーキで突っ込んできた。	58	17	231	500 ～ 999
85	2016	7	17～ 18	高速道路走行中、先頭の軽乗用車がタイヤバーストにより横転し、その後ろを走行していた2台（被災者は2台目）は十分車間距離を取っていたため横転車両の前でぶつかることなく停車した。その10数秒後、脇見運転をしていた後続車両がノーブレーキで突っ込んできた。	55	17	231	500 ～ 999
				原料運搬作業において、原料1トンリーチフォークリフトを				

93	2016	5	3~4	原材料を投入する作業中、右手に違和感があり、その後右腕～右手首にかけて痛み、腫れが発症した。	40	19	529	10～ 29
94	2016	5	11～ 12	トナーバインダー固化粉碎設備において、固化バットよりサージコンベアに樹脂を落とす作業をしていた。サージコンベア横の点検口より治具（棒）で樹脂を突き、治具を引き抜く際にバランスを崩し、架台ごと床面に落下し右手首を負傷した。	29	1	371	100 ～ 299
95	2016	5	14～ 15	製造現場で残渣廃棄物を溶解し排水処理を行う作業準備として、水道水と蒸気で温水を作成し、溶解専用容器へホースにて受けていた。別の作業にて水道水を使用した際、ホースへの水道水の水量が低下し、ホースが被災者の顔面近くまではね上がり、顔・首・胸に温水がかかり火傷した。	31	11	715	100 ～ 299
96	2016	5	15～ 16	工場の製品工程サンプリング採取中、水作業を伴う作業が含まれる為、フロアーの一部が濡れていたが、急いでフロアー移動を行った際、長靴裏の粉塵付着、滑りやすい事の注意不足が重なり、足が滑り、前側に倒れた事で左膝を強打した。	48	2	417	30～ 49
97	2016	4	11～ 12	小巻機横にある椅子に座って作業を開始しようとした際、浅く座った為、椅子から滑り転倒。臀部を強打した後、後ろに仰向けになった拍子にウレタン小巻機下部の支柱の角に後頭部を強打した。	63	2	391	50～ 99
98	2016	4	1～2	塩化ビニル（PVC）樹脂の重合器内部の清掃用の足場設置の為、被災者と作業員Aが入器して、1段目の足場に上がり、2段目の足場板の設置作業中、作業員Aが奥側の足場板の上で、2段目の足場板を載せる角材を設置。被災者は入り口側の足場板の上で外から搬入する角材を受け取る際、手間側のバックルに左手を当てて支え、右手で角材を受け取ろうとした時、左手が滑ってバランスを崩し、底部まで転倒し、被災。	42	1	319	300 ～ 499
				ラック上のメイン熱水配管から分岐した熱水配管の漏洩処理を行うため、熱水送液ポンプを停止し、ポンプ出口のバルブを閉				

99	2016	4	16～ 17	止して作業を開始した。メイン配管と分岐配管とのバタフライ弁のフランジボルトを緩めた際に、依然として熱水が出たため熱水配管内の残留熱水をブローすべく措置を行った。ブロー口から熱水が出ないことを確認した後に、漏洩配管を取り出しバタフライ弁の上にエンドフランジを載せた時に、再度熱水が下部配管から噴き出し被災した。	40	11	321	1000 ～ 9999
100	2016	4	22～ 23	定量ポンプを用いて、原材料の滴下による仕込み作業中、滴下後、仕込みライン洗浄のために溶媒（モノクロロベンゼン）を同様に仕込もうとしたが、滴下がうまく行えなかったため、中断し、定量ポンプの吐出側のフレキシブルホースを外そうとした際、ホース内に残存していた塩化チオニルが顔、眼にかかり薬傷を負った。	40	12	514	50～ 99

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。